

学校法人天使学園中期計画

2020年4月

学校法人天使学園中期計画（2020年度～2024年度）

1 建学の精神と学園の教育理念

天使学園は、その創設者「マリアの宣教者フランシスコ修道会」（FMM）が大切にしていた精神「愛をとおして真理へ」を建学の精神として、7名の修道女たちが身をもって示した人間愛の教えに基づき、すべての人を平等に大切に、その人の立場に立って看護と栄養の職務にあたる専門職業人の育成を目指してきました。

本学園は、今日まで延べ1万名余りの卒業生・修了生を社会に送り出し、その多くは、看護師、保健師、助産師、管理栄養士及び栄養士として国内はもとより世界各国で人々の健康と生活支援に直結した職業人として活躍しています。このような専門職業人を育てること、それこそが天使学園の教育理念の根幹であり、天使大学の目的です。

2 学園の源泉と将来展望

1908（明治41）年、「マリアの宣教者フランシスコ修道会」（当時の本部パリ）から7名の修道女が過酷な生活を強いられている開拓民たちのために札幌に派遣されました。修道女たちは施療所（現・天使病院）を開設し、日夜貧しい人々へ手をさしのべ、病める人々に献身的な看護を行いました。

1935（昭和10）年、ローマ教皇ピオ11世は、ヨーロッパで高いレベルの看護教育がよい成果をあげたことを称賛し、看護に携わる修道女たちに最高の知識と技術をもって人々に奉仕をする看護人材の養成に力を注ぐことを勧めました。マリアの宣教者フランシスコ修道会は、札幌と東京で高いレベルの看護教育を始めることを決定し、1947（昭和22）年に札幌天使女子厚生専門学校が設立されました。その後、天使女子栄養学院が設置され、天使厚生短期大学、天使女子短期大学と改称され、1952年には助産婦学校が併設され、1965年に短期大学専攻科に改組され、2000年に天使大学に改組転換されました。

さらに、2004年に専門職大学院助産研究科を、また、2006年には大学院看護栄養学研究科を開設し、1学部2学科2研究科を擁する大学として現在に至っています。

本学園は、2017年に創立70周年を迎え、また2020年には大学開学20周年を迎えます。今日、大学の使命は、教育、研究、社会貢献にあります。従って、大学は、教育、研究をとおして社会や地域の要請に応えることが一層求められています。このため、本学園は、建学の精神に基づき社会の変化に適切に対応しつつ大学としての責務を果たし、将来に向けて引き続き発展していくため不断に自らのあり方を見直し、必要な大学改革に取り組んでいきます。

3 ミッション

カトリック精神に基づく教育・研究と社会貢献は本学園のミッションの根幹です。

すべての教職員が、このキリスト教の基本的な教えについて理解を深め、教育に反映するよう努めていくため、建学の精神を踏まえて本学園の「ミッション」を次のように定めます。

(1) 人間の尊厳を重んじ、キリストの愛にならって人々に仕える人間性の陶冶

キリスト教の人間観に基づいて、人間の尊厳を尊重する能力を陶冶します。

(2) 高度な専門性に裏付けられた実践力を持つ専門職業人の育成

適切なカリキュラム編成と、その実行を可能にする教育力及び運営システムにより、トップクラスの教育を目指します。

(3) 実践教育・研究・地域貢献のリーダーの育成

高いレベルの実践教育と研究により学生を導くとともに高い専門性を活かし、地域に貢献する人材を育成するよう努めます。

4 中期計画の策定趣旨

中期計画は、本学園が目指すべき基本方針を明確にし、本学園及び天使大学の各構成員が目的を共有し、目標実現に向けて取り組むためのものです。中期計画については、不断の点検、評価、見直しを行いながら永続的に取り組みを推進していく必要がありますが、2020年度から改正された私立学校法が適用されることから、先ず、2020年度から2024年度までの5年間を対象とする天使学園中期計画を策定しました。

中期計画では、急速に進展する少子超高齢社会など大学を取り巻く状況が大きく変化している中で、本学園が中央教育審議会の答申「2040年度に向けた高等教育グランドデザイン」など国が掲げる高等教育の将来像を見据えながら、今日の大学に求められている要請に応えつつ学園の発展に向けた基盤づくりに取り組むこととしています。

5 全体目標と戦略目標

(1) 全体目標

目指すべき将来像を念頭に置きながら、大学としての喫緊の諸課題の解決を図り、永続的な発展に必要な大学の基盤づくりを目指すため、二つの全体目標を掲げています。

ア 全体目標1：本学が抱えている次の諸課題の解決に取り組みます。

- ① 2018年度大学認証評価及び助産専門職大学院認証評価における課題
- ② 2017年3月理事会における決議事項の継続課題
- ③ 教育の質に係る客観的指標調査における改善課題

イ 全体目標2：本学の永続的な発展に必要な基盤づくりを推進します。

(2) 戦略目標

上記の全体目標を達成するために次の戦略目標を定め、具体的な取り組みを推進します。

戦略目標Ⅰ：建学の精神の具現化と学園運営の基本理念

戦略目標Ⅱ：教育の質保証体制の構築

戦略目標Ⅲ：研究業績の向上

戦略目標Ⅳ：教育に関するビジョンの構築

戦略目標Ⅴ：学生募集・学生受け入れ態勢の充実

戦略目標Ⅵ：包括的な学生支援策の充実

戦略目標Ⅶ：地域連携と社会貢献の促進・充実

戦略目標Ⅷ：経営基盤の充実

6 年度別計画

中期計画の全体目標及び戦略目標を推進するため、学園は年度別の計画を作成し具体的な事業を位置付けるとともに、毎年度の事業計画に反映させてその推進に努めます。

また、年度別計画はその実施状況を踏まえて柔軟に見直します。

大学の各関係学科、研究科、科（各種センターなど）及び事務局においては、全体目標及び戦略目標を具体的に推進するために必要な事業について、毎年度検討し提案するものとし

ます。

7 中期計画の構成内容

中期計画の戦略目標及びそれらを達成する事業は、次のとおりです。

戦略目標Ⅰ：建学の精神の具現化と学園運営の基本理念

カトリック学校としての教育方針は、学園の存在基盤そのものです。すべての教職員が、キリスト教の基本的な教えについて理解を深め、教育に反映するよう努めていきます。

I-1 建学の精神の浸透

- (1) カトリック精神に基づく教育理念の浸透
- (2) カトリックセンター機能の充実と自校教育の推進

I-2 周年記念事業等の推進

- (1) 開学20周年記念事業の実施と25周年に向けた取組み
- (2) 開学記念資料の収集・整理

I-3 天使ブランドの維持、強化

- (1) 天使ブランドの維持、強化の取組み
- (2) 同窓会・後援会との連携強化
- (3) 卒業生・修了生への情報発信

戦略目標Ⅱ：教育の質保証体制の構築

本学園が目指す専門職業人の育成に必要なカリキュラム、教育力・研究力、並びに運営システム等を不断に改善・改革していきます。

特に、内部質保証システムの構築に向けて自己点検・評価活動を適切に実施し、情報公開を推進するため、教学IR機能の整備に取り組みます。

Ⅱ-1 教学マネジメントの確立と課題への対応

- (1) 学長を中心とする教学マネジメントの確立
- (2) 大学認証評価及び助産専門職大学院認証評価における課題への対応
- (3) 分野別認証評価の受審
- (4) 教育の質に係る客観的指標調査における改善課題への対応
- (5) 教学IR機能の整備

Ⅱ-2 内部質保証体制と点検評価の実質化

- (1) 内部質保証体制の方針策定とPDCAサイクルの構築
- (2) 自己点検評価活動の実質化
- (3) 第三者による点検
- (4) ホームページ等による情報公開

Ⅱ-3 3ポリシーとアセスメント・ポリシーの明確化

- (1) 新3ポリシーの策定、推進
- (2) アセスメント・ポリシーの策定
- (3) 教職課程の質保証

Ⅱ-4 特色を生かしたカリキュラムの編成・充実

- (1) カリキュラム・ルーブリックに準じた科目編成と配置
- (2) 開講科目数の適正化

Ⅱ-5 学修成果の可視化

- (1) アセスメント・ポリシーに基づく点検評価
- (2) GPA制度の活用促進
- (3) 教育の向上のための調査、活用
- (4) 栄養学科、看護栄養学研究科の学修成果測定の改善

Ⅱ-6 FD・SD活動の充実、強化

- (1) FDの推進
- (2) SDの推進
- (3) 学修支援のための教育力向上

戦略目標Ⅲ：研究業績の向上

科研費等の外部研究費の獲得に取り組む教員を支援するとともに、申請不採択課題や若手教員の研究についても支援します。

Ⅲ-1 研究業績の向上

- (1) 研究環境の整備
- (2) 研究資金の確保
- (3) 研究費の見直しによる研究支援
- (4) 若手教員の研究支援体制の整備

戦略目標Ⅳ：教育に関するビジョンの構築

少子超高齢社会など大学を取り巻く環境が変化している中で、国が掲げる高等教育の将来像を見据えながら本学の学部及び大学院の各教育組織のあり方について学園と教職員が一体となって見直し、学園の持続的な発展に向けて将来ビジョンを再構築します。

Ⅳ-1 学部・大学院の将来ビジョンの再構築

- (1) 看護学科の将来ビジョンの再構築
- (2) 栄養学科の将来ビジョンの再構築
- (3) 教養教育科のあり方検討
- (4) 看護栄養学研究科の将来ビジョンの再構築
- (5) 専門職大学院助産研究科の将来ビジョンの再構築

戦略目標Ⅴ：学生募集・学生受け入れ態勢の充実

本学園の教育方針を理解し共感する学生を一人でも多く集めることは、ミッションの実現のために極めて重要です。そのための学生募集や選抜の方法を検討し、安定的な志願者数を確保するとともに、アドミッション・ポリシーに合致した学生の獲得に努めます。

Ⅴ-1 学生の受入れ拡充

- (1) 学校推薦型選抜（指定校制）のあり方の検討
- (2) 栄養学科志願者増加への対策
- (3) 大学院在籍学生比率の向上

Ⅴ-2 入学者選抜への対応

- (1) 2024年度入学者選抜の検討
- (2) 入学者選抜におけるリスク管理の強化
- (3) 入学者選抜におけるインターネット出願、ポートフォリオの利用の検討

(4) 社会人選抜のあり方の検討

戦略目標Ⅵ：包括的な学生支援策の充実

学生が、入学から卒業まで安全で充実した学生生活を過ごし、将来展望をもって自分の目標を達成できるよう快適な教育環境の整備や経済的な支援に努めます。

Ⅵ-1 学生支援策の充実

- (1) 学部入学定員の増加への対応
- (2) 休学者・退学者の減少対策の実施
- (3) 奨学金制度の充実
- (4) 課外活動への支援の充実
- (5) 学生満足度調査の活用

Ⅵ-2 健康管理面の支援

- (1) 保健相談室、学生相談室による支援
- (2) 障害学生への支援
- (3) 健康診断による健康の維持・増進
- (4) ハラスメントへの対応

Ⅵ-3 キャリア支援の充実・強化

- (1) キャリア支援の充実
- (2) 求人開拓の推進
- (3) 国家試験合格率の向上
- (4) 実習施設の確保
- (5) 教員採用試験対策の充実

Ⅵ-4 学生情報の適正管理と活用

- (1) 入学前の情報
- (2) 在学中の情報
- (3) 就職情報
- (4) 卒業後の情報

戦略目標Ⅶ：地域連携と社会貢献の促進・充実

大学としてこれまで培ってきた知見を活かし、教員や学生が教育、研究、学習の成果を地域社会に還元できるよう取組を継続します。

Ⅶ-1 地域との連携

- (1) 札幌市東区との連携事業、5者連携事業の推進
- (2) 札幌市との協定事業の推進
- (3) 他大学との連携事業の推進
- (4) 大学独自の取組の継続
- (5) 天使健康栄養クリニックの展開
- (6) 栄養教諭等への支援

Ⅶ-2 実習施設との連携強化

- (1) 実習施設との包括連携協定の締結

Ⅶ-3 国際交流の推進

- (1) 外国語教育の充実
- (2) 海外研修・学習プログラムの継続

- (3) 韓国カトリック大学校との連携推進策の検討
- (4) ASEACCU（東アジア及び東南アジアカトリック大学連盟）国際会議等への参加
- (5) 海外の大学との教育研究連携協定の締結大学の推進

戦略目標Ⅷ：経営基盤の充実

高度な専門性に裏付けられた実践力を備えた専門職業人を育成するという学園のミッションを果たすため、社会の変化や大学を取り巻く環境の変化に的確に対応し、経営基盤の充実、強化に努めます。

Ⅷ－１ 法人ガバナンスの確立、強化

- (1) 理事長を中心とする理事会ガバナンス機能の充実、強化
- (2) 理事会、評議員会及び監事の相互チェック機能の向上

Ⅷ－２ 教職員の人事体制の確立

- (1) 計画的な教職員の確保
- (2) 公正・公平な人事制度の確立
- (3) 事務組織の見直し

Ⅷ－３ 財務の健全化

- (1) 中期財務計画の推進
- (2) 文部科学省経常費補助金の確保
- (3) 寄附金確保策の推進
- (4) 収入増加策の検討
- (5) 支出削減策の検討

Ⅷ－４ キャンパスの整備

- (1) 校舎の有効活用
- (2) 施設設備整備計画の策定と計画的な修繕工事の実施
- (3) 情報システムの安定稼働

Ⅷ－５ 働き方改革への対応

- (1) 業務効率化の推進と時間外勤務の削減
- (2) 同一労働同一賃金への対応

Ⅷ－６ コンプライアンスの徹底

- (1) 法令遵守の徹底
- (2) 科研費補助金の不正受給の防止対策の推進
- (3) 出題ミス防止及び不正防止対策の推進
- (4) アカデミック・ハラスメントやパワー・ハラスメントの防止と相談体制の整備

Ⅷ－７ 危機管理体制の整備

- (1) 「危機管理マニュアル」の整備、運用
- (2) 防災計画、全学規模の訓練内容の見直し
- (3) 災害対應用備蓄品の整備

Ⅷ－８ 将来に向けた法人体制の検討

- (1) 学校法人天使学園の将来展望
- (2) 大学連携による教育研究活動充実の可能性
- (3) 文部科学省が提示する国公立を通じた法人統合への対応